

都市構造可視化ツールの活用

📖 日常業務での活用検討 📖



滋賀県土木交通部都市計画課

1.はじめに

滋賀県の概要

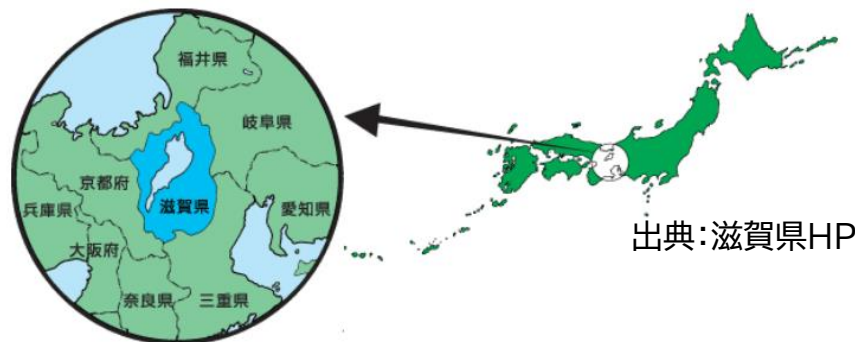
位置: 滋賀県は日本のほぼ中央にあり、
北は福井県、東は岐阜県、
南東は三重県、西は京都府

人口: 1,405,803人

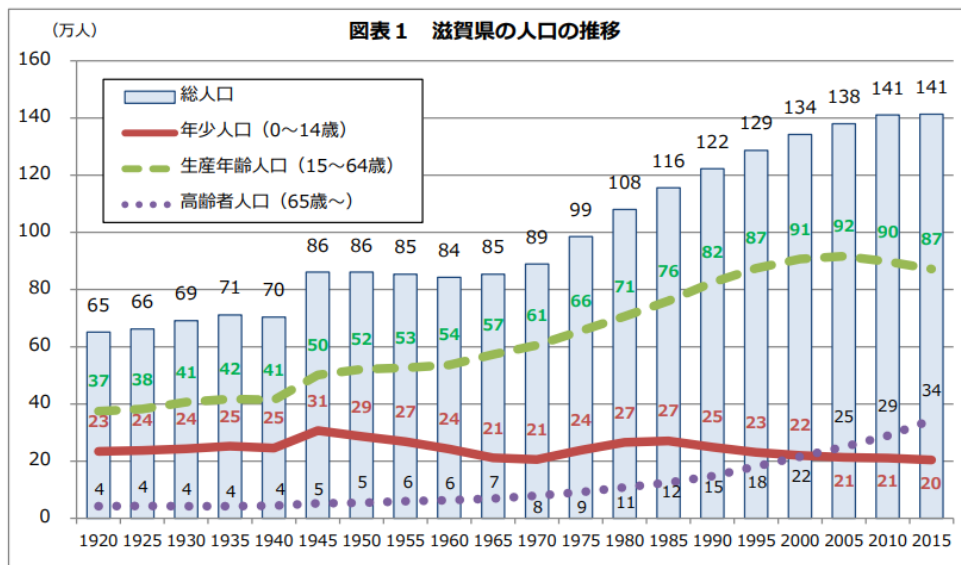
面積: 約4,017平方キロメートル

そのうち約6分の1が「びわ湖」

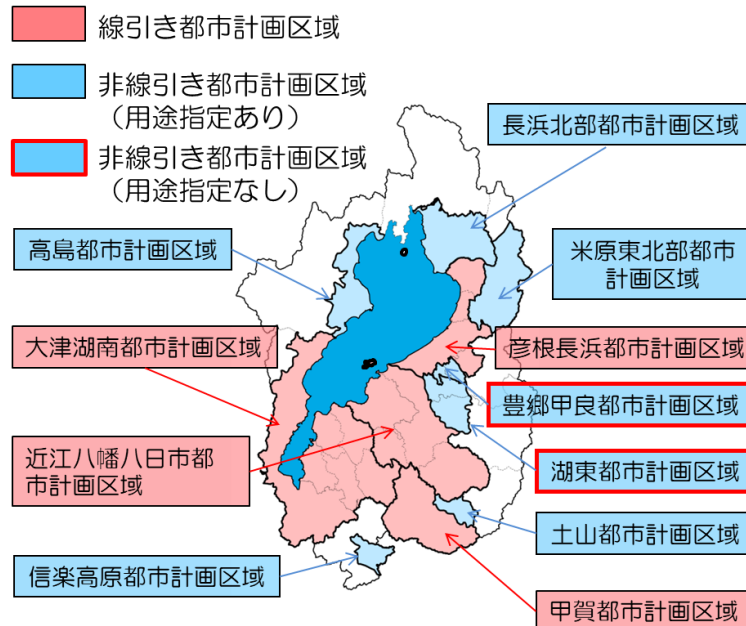
都市計画区域: 11区域(線引き4、非線引き7)



出典: 滋賀県HP



【資料】総務省「国勢調査」



滋賀県都市計画総括図

2.可視化ツールの活用対象（例）

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の現状と課題

都市計画運用指針

住民に理解しやすい形であらかじめ中長期的な視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな筋道を明らかにしておくことが極めて重要であり、そうした機能の発揮こそマスタープランに求められているといえよう。

しかし！

現状は...

- ・都市計画区域内人口は平成12年（2005年）の55,451人から減少する傾向にあり、本県の基礎調査の結果（国立社会保障・人口問題研究所の将来推計値等を参考）によると、令和12年（2030年）には、37,676人と推計され、平成12年（2005年）から約32%減少する。
- ・用途地域においても、平成12年（2005年）の15,301人から令和12年（2030年）には13,849人と推計され、ピーク時から約10%減少する。
- ・高齢者人口の割合は平成12年（2000年）から増加傾向にあり、本区域の人口に占める老年人口の割合は、平成27年（2015年）の32.0%から令和12年（2030年）には40.5%に増加する予測である。

高島都市計画 都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和2年3月）抜粋

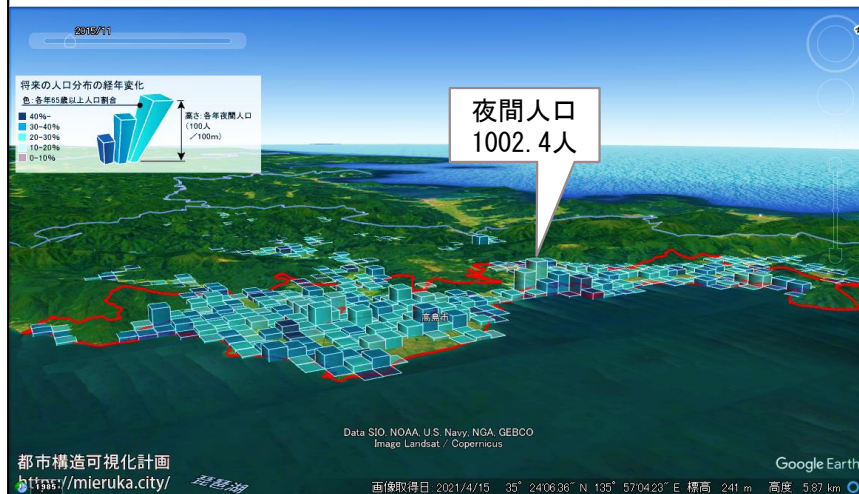
グラフ等で示されているものは殆ど無く、
「住民に理解しやすい形」とは**言い難い状況...**

3.可視化ツールのポテンシャル

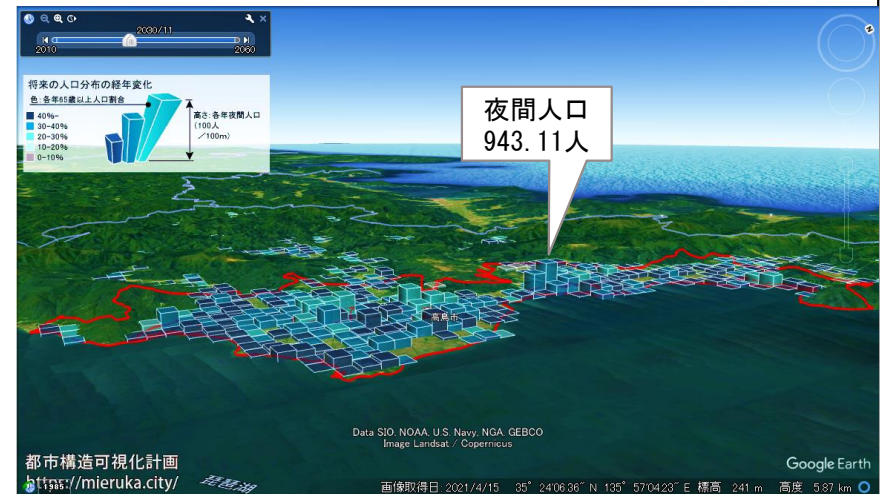
将来の人口分布の経年変化@滋賀県高島市

高島都市計画区域（非線引き都市計画区域）

2015年



2030年



- 2015年→2030年で、夜間人口が全体的に減少していることがわかる。
- 2015年→2030年で、65歳以上の人口割合が全体的に増加していることがわかる。

データを3Dで可視化することにより、
視覚的にわかりやすく情報を伝えることができる。

4.可視化ツールの活用（案）

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針×可視化ツール

・都市計画区域内人口は平成12年（2005年）の55,451人から減少する傾向にあり、本県の基礎調査の結果（国立社会保険・人口問題研究所の将来推計値等を参考）によると、令和12年（2030年）には、37,676人と推計され、平成12年（2005年）から約32%減少する。

・高齢人口の割合は、平成27年（2015年）の32.0%から令和12年（2030年）には40.5%に増加する予測である。

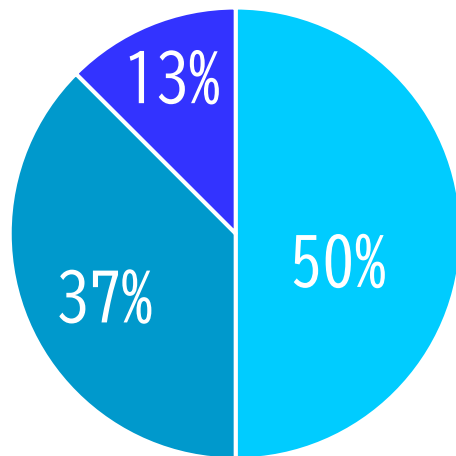


5.勉強会への活用

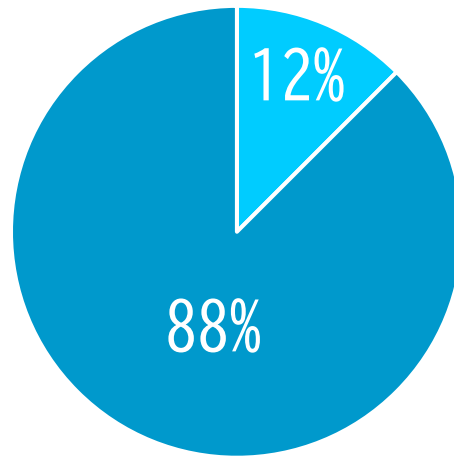
市町の都市計画担当者に共有

市町都市計画担当者会議の議題の一部に「都市計画可視化計画」についてプレゼンを行った。

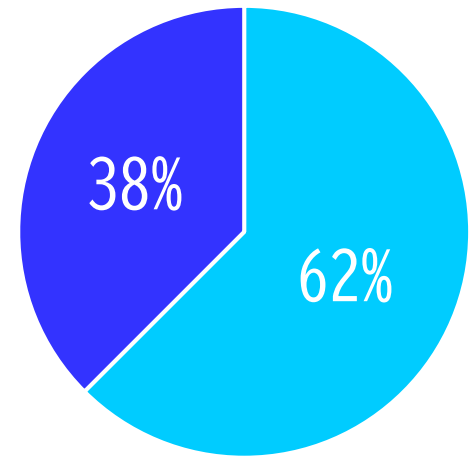
その結果、参加者の8割強が内容を知らなかったと回答。6割が今後利用したいと回答し、今後も引き続き活用を推進していきたい。



知らなかった
知っていたが、内容は把握していなかった
知っていて、内容も把握していた



参考になった
概ね参考になった



利用したことがないが、今後利用したいと思った
利用したことがなく、今後利用しようとは思わない

6. 日常業務での活用検討

○○○×可視化ツール＝∞

- ◆ 住民説明会や公聴会×可視化ツール
- ◆ 都市計画審議会×可視化ツール
- ◆ 市町決定の都市計画協議×可視化ツール
- ◆ 研修×可視化ツール

Etc...



今後の展望

- 都市構造可視化ツール活用に向けて、スキルアップ
- 係内、課内、県内市町に向けて、情報発信
- 日常業務への可視化ツールの取り入れ
- 課の3Dマウスを活用！

可視化ツールを日常業務に取り入れることが、
「あたりまえ」となる風潮を目指して！

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

(第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会)

わたSHIGA輝く国スポ：令和7年9月28日（日）～10月8日（水）

わたSHIGA輝く障スポ：令和7年10月25日（土）～10月27日（月）

